



卒業に振る手ひかりを放ちけり
 鷹女忌の鞆誰も居ぬから漕ぐ
 心音の微妙な加速桃の花
 散り敷きて高なきものに花の塵
 陽炎や直線の街退屈で
 憧れも予知も逃水の向かうがは
 切株は鳴らぬレコード鳥の恋
 校章の残る自転車麦の秋
 鳥の所作まだつまびらか花楓
 樹海にも芽立ちのありて古代めく
 花の雨鳩亭由来の東歌
 これよりは大灘の風鶴引けり
 地震あとの耳聴くをり春の闇
 追へば吾に狩の血脈雉の声
 立春の己を面白く削がむ

辻 美奈子
 千田 百里
 甲州 千草
 栗原 公子
 峰崎 成規
 細川 洋子
 大畑 善昭
 成宮紀代子
 高橋あさの
 能美昌二郎
 塙 誠一郎
 荒井千佐代
 田所 節子
 須賀ゆかり
 鈴木 光影

剪定の切らぬリズムと切るリズム
 春愁の山羊キリストの貌をして
 国の過去わたくしの過去昭和の日
 夕星や白木蓮にみづの音
 朧夜のジャズのしづくの洩れきたる
 初蝶来風とは言へぬ風に乗り
 貝塚に貝の重なり飛花落花
 春北斗キープの子等を掬ひしか
 竹を割る内は真白よ利休の忌
 山祇の宿りて白き山桜
 卒業を父は畑で迎へくれ
 桜大樹なぞへに小さき山羊の牧
 蓬摘むいつか独りに独り言
 海鳴りは花菜明かりの向かうより
 田起しや鳶ゆつくりと影落とす

関根 瑤華
 菅原 健一
 遠城 健司
 栗坪 和子
 大矢 恒彦
 本池美佐子
 平松うさぎ
 古居 芳恵
 小形 博子
 澤田 英紀
 柿内 清一
 河野 智子
 笠井 令子
 竹田 絹子
 青木 幹晴

